



写真は集会実行委員会のブログから拝借。



関西電力を七〇〇人で包囲！

御堂筋をにぎやかにデモ行進

四月二十二日関西電力本店前で「4・22大飯原発うごかすな！関電包囲全国集会」が開かれました

四月二十二日関西電力本店前で「4・22大飯原発うごかすな！関電包囲全国集会」が開かれました

た。関電側は大飯四号機を五月九日に再稼働すると発表しています（五月九日に再稼働）。日本全国から十七団体、福井のおおい町から猿橋巧町会議員、美浜町から寺田順一町会議員の参加がありました。また、青森や東海村、柏崎、上関など原発反対運動をしている仲間と原子核物理学・佐賀大学名誉教授の豊島耕一氏からメッセージが寄せられました。

主催者を代表して原子力発電に反対する福井県民会議の中島哲演さんが再稼働反対理由を五点にまとめて挨拶しました。それを紹介します。

再稼働反対理由

その巨大な負の遺産を後の世代に残すだけでなく、その一部だけでも大事故で環境に放出されると、いかなる惨禍がもたらされるかを福島は実証しています。

①大型の大飯原発三、四号機が一年間稼働すれば、単純計算で約二〇〇億キロワットを発送電、関西電力が得る電気料金は約四千億円。一方、両原子炉内に新たに生成・蓄積する死の灰は広島原爆二千発分、プルトニウムは長崎原爆の二〇発分。

②だからこそ原発は五重の壁が必要なのです。だからこそ関西大都市圏の海岸部に火力発電所は林立していますが、若狭には十五機もの原発を集中させたのではないでしょうか？ 関東首都圏と福井県浜通りの一〇機の原発との関係も同じです。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

だからこそ国策民営の当事者たちは麻薬的な金をばらまき、原発マネー

ファシズムで地元を支配してきました。この差別的な立地構造を棚上げし、温存したまま再稼働を云々することを、若狭の私たちはどうしても受け入れることができないのです。

しかし再稼働まで安易に認めている立地地元も、大事故時の加害責任の一旦はまぬがれないと、私自身は思っています。

と、同時に消費地元の関西圏のみなさんによる再稼働反対の声のさらなる広がりを希望します。

③わが地震列島は静穏期から阪神大震災、そのあ

たりから動乱の周期に入と言われています。

若狭湾では四、五百年前あるいは千二百年前に大津波をとまなう大地震の記録、民間伝承もあり、この百年以内には北丹後大震災、福井大震災も経験しています。

若狭湾において第二の福島にみまわれるのが先か、あるいは一五機の原発を全部廃炉に追い込むのが先か、私たちはそれを迫られています。

④さて、電力自由化にもない関西電力の顧客離れは、この二月末現在で一四〇万件を超えたそうです。大飯三号機再稼働を強行した直後、私が住

職をしております明通寺は関西電力から原発に依存しない電力会社に切り替えました。大飯四号再稼働を強行したら、さらなる顧客離れが拡大するのではないのでしょうか。

もっとも、関西電力に對して私自身は兵糧攻めを目的としているわけではありません。関電の経営陣が常識を取り戻し、再稼働を断念し、脱原発に転換するならば、まだ離れていない消費者たちも踏みとどまり、その大英断を共感、支持するようになるのではないのでしょうか。その可能性を関電のみなさんに訴えたいのです。

⑤最後に国会へ初めて原発ゼロ法案が野党四党によって共同提案されています。しかし数の暴力が横行している現在の国会内の論戦だけに委ねているわけにはいきません。

「再稼働ストップ、原発ゼロ社会へ」という国会の外の大中小の団体グループ、ありとあらゆる個人有志の大同団結の輪を大きく広げ関西電力包囲にとどまらず国会を大包围してまいりましょう。

アート・アド分会 N